

人権文化の創造に向けて

関連する主な人権課題：同和問題

同和問題は日本固有の人権問題であり、その早期解決を図ることは国の責務であり、国民的課題として、多くの人々が取り組んできました。その結果、この問題にかかわる教育の二大課題である「教育上の較差の解消」と「差別意識の払拭」は、一定の成果を上げるに至っています。しかし、今日、結婚や就職にかかわる差別事象をはじめ、新たにインターネット上の差別的な書き込みなどの問題も起こっています。

同和問題を解決し、すべての人の自己実現と共生に向けて、何が大切なのかを考えてみましょう。

●研究課題

(1) 教科書などを参考にして、歴史に見る差別されていた人々の豊かな文化や優れた技術について調べてみましょう。

【ポイント】

- ・芸能や庭づくりなどについて調べてみましょう。
- ・皮革技術などについて、各時代の経済活動と関連付けて調べてみましょう。

(2) 同和問題の解決に向けての取組を調べてみましょう。

【ポイント】

- ・全国水平社や水平社宣言を起草した西光万吉などについて調べてみましょう。
- ・同和問題の解決に向けて取り組んだ人たちの思いや願いについて調べてみましょう。

●活動課題

(1) 市役所などの人権教育・啓発を担当している窓口を訪問してみましょう。

【ポイント】

- ・「人権文化をすすめる県民運動」への取組について聞いてみましょう。
- ・啓発資料や研修会、講演会の情報を提供してもらいましょう。

(2) 地域で、人権文化の創造に取り組んでいる人を訪ね、インタビューしてみましょう。

【ポイント】

- ・人権文化の創造に向けての思いや願いを聞いてみましょう。
- ・地域教材に関する情報を提供してもらいましょう。

●ケーススタディ

「同和問題の解決に向けて必要なこと」をテーマとして、グループ学習をしました。思いつくままにカードに意見を書いていったところ、次のような内容のカードがありました。あなたは、進行係として、意見をどのように整理しますか。

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 学校で同和問題を教えない。 | <input type="checkbox"/> 学校で人権学習をしっかりする。 |
| <input type="checkbox"/> 何もしなくても自然になくなる。 | <input type="checkbox"/> 大人に意識を変えてもらう。 |
| <input type="checkbox"/> 差別を取り締まる法律をつくる。 | <input type="checkbox"/> 地名を変更する・まるごと移転する。 |
| <input type="checkbox"/> やさしさ・愛・思いやりの心を育てる。 | <input type="checkbox"/> マスコミがこの問題をきちんと取り上げる。 |

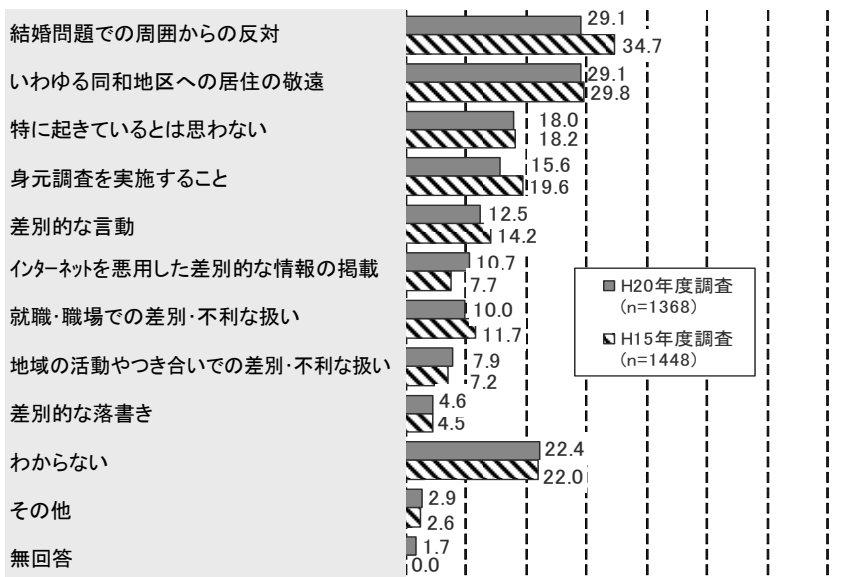
●チェック・シート

同和問題に関する今までの学習について、ふり返ってみましょう。

- 差別されていた人々の歴史を学習した。
- 同和問題の解決の歴史や、解決に取り組んだ人物について学習した。
- 同和問題が、今も残っていることを学習した。
- 同和問題を解決するために、自分が何をすればよいのかを学習した。
- 同和問題について全く知らない、学習したことがない。

●人権に関する県民意識調査

同和問題に関して、あなたは、今、どのような人権問題が起きていると思われますか。(〇は3つまで)



(平成20(2008)年 兵庫県・財団法人 兵庫県人権啓発協会)

●「ニッポン 人・脈・記 差別を越えて② エイトと一歩 世界変わる」

昨年末の土曜日、大阪府の被差別部落で、新潟水俣病の患者の暮らしを追った映画「阿賀に生きる」の上映と講演があった。部落外からも参加者がたくさんあり、懇親会は夜遅くまで盛り上がった。

企画進行を務めた川崎那恵(27)は大阪市立大の学生時代から新潟の阿賀野川に通った。

「患者さんへの見方が変わりました。病を背負いながらも、仕事や遊びを楽しんでいる。それは私がルーツを持つ部落も同じです。いつも差別に泣いたり闘ったりしているわけではなく、楽しいこともうれしいこともある。一人ひとりの人間がいることを伝えたい。それを知れば、簡単に差別なんかできないと思うんです」。

大学の職員。週末には部落の内外でいろんな人と語り合う。

部落出身を意識したのは大学に入ってからだ。部落問題の講義があることを知り、「そういえば、うちも部落や」。

両親が大阪市の部落の出身。一時、父の部落で暮らす。「部落に住んでいたことを言ったらあかん」と母に口止めされた。

講義で部落の歴史や現状を学んだ。ショックだったのは受講生のアンケート。「生まれてくる子が差別されるかもしれないから部落の人とは結婚しないという考え方に共感できる」という学生が半数もいた。

「差別はまだあるんや。そう思うと、2年生になって出会った後輩たちに部落出身と言えなくなった。差別されるかもしれへん。一方で、言えないしんどさもわかってほしいから、軽く受け流されるのも嫌だった」。

やっと告げたのは、香川県の部落で合宿をした時。後輩たちが部落の人の話を真剣に聞いているのを見たからだ。

「部落出身を明かすことは一種の賭けなんです。相手がどんな反応をするかわからない。でも、エイトと踏み出さないと、部落のことをわかってもらえない。そんなザラザラ感が心の中にいつもあります」。

(朝日新聞 平成22(2010)年1月20日付から)

キーワード解説

▼ 人権文化

人権文化とは、日常生活の中で、お互いの人権を尊重することを、自然に感じたり、考えたり、行動することが定着した生活の有り様そのものをいう。

▼ 全国水平社 [大正11(1922)年]

部落の解放を目的に、京都岡崎公会堂に全国から約3,000名を集めて創立された。その中心となったのは、阪本清一郎、西光万吉、駒井喜作などの青年達であった。「人の世に熱あれ 人間に光あれ」で結ばれる「水平社宣言」は、日本最初の人権宣言と評価される格調高いものであった。また、兵庫県水平社も同年の11月に結成された。

▼ 日本国憲法第14条

すべて国民は、法の下に平等であつて、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない。

▼ 同和対策審議会答申

[昭和40(1965)年]

同和問題を「日本国憲法によって保障された基本的人権にかかわる課題である」と規定し、早急な解決は「国の責務であり、同時に国民的課題である」と指摘した。この答申に基づき、昭和44(1969)年、同和対策事業特別措置法が制定され、全般的、総合的な行政施策が始まった。平成14(2002)年3月に特別措置法が終了した後は、一般施策としての対策が講じられるようになった。

▼ 人権教育基本方針

[兵庫県教育委員会 平成10年(1998)年]

「すべての人の自己実現と共生に向けて、同和問題が人権問題の重要な柱であると捉えつつ、人権という共通の価値に立脚し、また、生命の尊厳やボランティア精神の尊さ、他者を思いやる心の大切さなど震災から学んだ教訓を生かし、『人権という普遍的文化』を構築することを目標に、すべての人の基本的人権を尊重していくための人権教育を推進する」と、兵庫県の人権教育の基本方針を定めた。

▼ 人権教育及び人権啓発の推進に関する法律 [平成12(2000)年]

人権尊重の理念に立ち、社会的身分、門地、人種、信条又は性別による不当な差別や人権侵害の現状を踏まえ、人権擁護を目的に、人権教育及び人権啓発に関する国や地方公共団体及び国民の責務を規定している。

▼ 兵庫県人権教育及び人権啓発に関する総合推進指針 [平成13(2001)年]

人権尊重の理念に関して、家庭や学校、地域、職場など、あらゆる場における教育及び啓発を進め、人権尊重の理念に関する理解を深めることにより、人権の尊重が社会の文化として定着し、県民すべてが互いを認め合いながらともに生きる「共生社会」の実現をめざして策定された。